

## 平成 26 年度 大学・短期大学の体力測定結果調査報告書

### ■調査目的

本調査は、公益社団法人 全国大学体育連合の会員校における体力測定の実施状況と体力測定結果を把握し、大学・短期大学の体育授業における体力測定のあり方・位置づけを考える際の基礎資料とすることを目的としている。

#### 調査内容

1. 実施状況に関する調査
2. 体力測定結果調査

#### 調査対象

公益社団法人 全国大学体育連合の会員（395）：  
大学会員303校、個人会員92名

#### 調査期間

平成 26 年 12 月 15 日～平成 27 年 2 月 12 日

#### 調査方法

郵送調査法と Web を利用したオンライン調査の併用

#### 回収結果

1. 実施状況に関する調査 84 件（21.3%）
2. 体力測定結果調査 31 件（7.9%）

全国大学体育連合 調査・研究部

部長 飯野 要一

副部長 竹市 勝

副部長 林 容市（体力測定調査担当）

## 調査結果

### 1. 体力測定の実施率は 6 割前後

授業中に体力測定を実施していたのは 75.0 %（63 校）であった。多少の変動は確認されるものの、過去のデータと比較して今回の調査において体力測定を実施している大学の割合に大きな変動はなかった。体力測定を実施していない大学の方が、実施している大学よりも本調査への回答率が低い可能性も予想されるため、確定的なことはいえないが、少なくとも半数程度の大学においては、授業において何らかの体力測定を実施している事が示唆される。

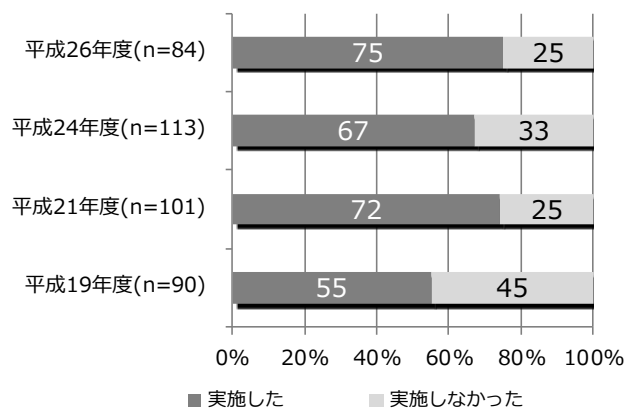
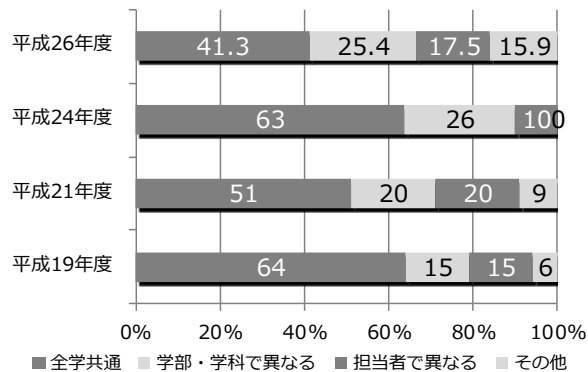


図1 体力測定の実施状況の変化：平成19年度からの変遷

## 2. 実施体制は、全学共通の割合が減少傾向

全体のトレンドをみると「全学共通」の割合が減少していると推察される。これに対して、「学部・学科で異なる」との回答は調査年度事に増加している。同一大学内であっても、大規模な集団での体力測定の実施が困難になっている可能性も示唆される。



体力測定の実施体制の変化：平成19年度からの変遷

## 3. 約8割の大学で新体力テストを実施（一部実施も含む）

体力テストを実施したと回答のあった大学の77.8%（49件）において、文部科学省の新体力テストが実施されていた。しかし、8項目すべてを実施したのはそのうちの28.6%（14件）に留まり、新体力テストの項目からいくつかを選択して実施している大学が多数（71.4%、35件）を占めていた。新体力テストが定着したことが確認された。

## 4. 体力測定を実施するうえでの問題点は、「測定場所・環境」が最多

大学体育の授業において体力測定を実施する上で生じている様々な問題点について、自由記述で回答を求めた。測定上の問題点として最も多かったのは「測定場所・環境」に関するもの（11件）で、ついで「受講者数・クラス数」、「教員（検者）の人員不足」に関するもの（各7件）であった。これらの要因については、解消が困難であるものも多いため、大学の教育目標を達成するために体力測定やその結果を利用する大学においては、代替項目の選定等が今後の課題になると予想される。「実施意義」や「活用方法」に関する問題や疑問も6件認められ、体力測定の実施意義については、各大学における重要な課題になっていると推察された。

## 5. 体力測定結果調査の回答数は、少ないまま

昨年度から開始された提供データの統合および過去のデータとの比較を今年度も引き続き実施した。単なる単年度のデータ集計に留まらない、時系列的な変化を踏まえた有益な知見が提供できたと考えている。しかしながら、今回の体力測定結果の報告数は、31件と少なかった。会員校がデータを提供することに対する利点を感じられないことも、報告数が少ない大きな要因である可能性もある。開講目的と関連付けた体力測定の意義・位置づけや、体力測定結果を教材として有効利用する方略の調査・検討・報告、さらにはデータベースシステムの構築など、本連合独自の取り組みについて実際に検討を始める時期であると考えられる。

